

計画評価・策定部会の報告について

1 計画評価・策定部会の目的

東京都の計画評価・策定部会では、東京都の自殺対策計画について評価・検証及び検討を行う。

2 開催日時

令和3年7月30日（金曜日）午前10時から正午まで

3 議事等

- (1) 報告事項 東京都の自殺の現状等について
- (2) 報告事項 東京都自殺総合対策計画における各種取組の評価について
- (3) 討議事項 東京都の重点施策について

【主な意見】

(1) 東京都自殺相談ダイヤル及び SNS 自殺相談について

- ・電話・SNS 相談事業を都で進めていくことは賛成だが、全国規模で実施されている電話相談・SNS 相談とどのように連携していくかが非常に重要。窓口を多く設けるのではなく、入口は絞り、全国的な相談窓口相談してくる方々の受け皿として都道府県や区市町村が役割を果たすべき。
- ・電話相談や SNS 相談で繋がる方々は、相談を受け、話を聞いて問題が解決する方ばかりではない。相談者のうち2割前後の方々は継続的な支援が必要。
- ・相談事業では、伴走しながら支援を行うなど、問題の根本的な解決にまで携わるコーディネーター機能が重要であり、相談窓口の入口を闇雲に広げるのではなく、こうしたコーディネーター機能が可能な範囲で自殺相談ダイヤルや SNS 相談の検討を行うべきではないか。
- ・また、繋ぐべき出口がない相談者をどのように支えていくかは課題。出口の開拓、つまり繋ぎ先をより増やしていくことを考えることが重要。
- ・どの程度の相談を受けたのかだけではなく、他の相談支援を行う団体等や医療機関、場合によっては、警察に情報を依頼した件数がどれぐらいだったのか、継続的に支援を必要としている方々には平均でどの程度相談対応しているのか等の検証を踏まえ、事業のどの部分を強化する必要があるのか、あるいは足りないところ、弱いところはどのように連携すれば良いのかという発想で今後の事業の在り方を検討していくことも考えられるのではないか。
- ・コロナに関連する相談窓口と自殺相談ダイヤルがどのように連携していくのかということも是非検討をお願いしたい。

(2) 区市町村における自殺対策計画の策定について

- ・都は地域自殺対策推進センターとして未策定の区市町村への支援を実施すべき。
- ・コロナの状況も踏まえた持続的な実行可能な自殺対策計画であることが重要。

(3) 短期的にスピード感を持って対策を講ずべき層及びタッチポイントについて

- ・最も確実なタッチポイントはワクチン接種の会場。接種した後にどのような反応がある可能性があるかということ等を記載したチラシに相談窓口等に関するチラシを追加で配布することは可能であると考え。医療機関、職場での実施の場合は難しいが、少なくとも自治体が会場を設けて実施しているワクチン接種に関しては、住民に手渡しで確実に情報を渡すことが可能であるため、生かすべき。

(4) その他

- ・コロナ禍で、遺族の方々は非常に孤立している。東京都内では遺族の集まりが継続されているが、足を運ぶことは難しい状況。団体は、電話相談の対応時間を増やすとともに、メール相談やオンラインによるわかち合いの会を実施。
- ・港区では、遺族の集まりに参加される方々の子どもを預かる取組をしている。他の自治体でも参考にしていきたい。
- ・自宅療養の方々の中にはコロナによる症状はもちろん、眠れない、家族に感染させたらどうしようなど、様々な心の悩みを抱えている方も一定数存在するため、みなと保健所では、昨年4月から港区で実施している新型コロナに起因する心の悩みに特化した専用相談窓口の電話番号を載せた小さなリーフレットを、パルスオキシメーターを郵送する際に同封したり、定期的な健康観察の電話の際に伝えることにも取り組んでいる。
- ・自殺未遂者を警察が一時的に保護し御家族や医療機関に引継ぎを行うと、一時保護の取扱いについてはそこで終了するが、入院が却下になれば、御家族あるいは知人にお引渡しするほかない。再び自殺を試みるという行動に出る恐れは残るため、警察としては出来る限り医療機関に引き継ぎたいと考えている。